建築基準法施行令第４６条第３項に基づく筋違計算表　（S.56.6.1施行）

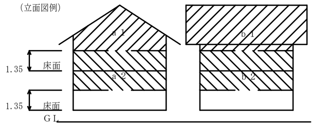
建築物の概要

１階床面積　（　71.21 ㎡ ）

２階床面積　（　71.21 ㎡ ）

見付面積

（立面図例）



２階梁間方向　（　4.7 ㎡ ）　---a 1

２階桁行方向　（　15.4 ㎡ ）　---b 1

１階梁間方向　（　28 ㎡ ）　---a 2

１階桁行方向　（　25.3 ㎡ ）　---b 2

（屋根及び壁による係数）

２階建の２階　（１）重い壁又は屋根　０．２１　　平屋　（１）重い壁又は屋根　０．１５

２階建の２階　（２）軽い壁又は屋根　０．１５　　平屋　（２）軽い壁又は屋根　０．１１

２階建の１階　（１）重い壁又は屋根　０．３３

２階建の１階　（２）軽い壁又は屋根　０．２９

（壁及び軸組の種類による倍率）

区分	軸　組	倍率
（１）	土塗り壁、木づり片面壁	0.5
（２）	イ．木づり両面壁 ロ．厚さ１．５ｃｍ幅９ｃｍの木材、φ９の鉄筋の筋違	1.0
（３）	厚さ３ｃｍ幅９ｃｍの木材の筋違	1.5
（４）	厚さ４．５ｃｍ幅９ｃｍの木材の筋違	2.0
（５）	９ｃｍ角の木材の筋違	3.0
（６）	（２）～（４）の筋違をタスキに入れる	各２倍
（７）	（５）の筋違をタスキに入れる	5.0
（８）	（１）、（２）の壁と（２）～（６）の筋違を併用	それぞれの和
（９）	構造用合板（告示第１６３号）	2.5

平屋建 ア 又は二階建の二階部分 カ

床面積による軸組計算 梁間、桁行方向共	見付面積による軸組計算 梁間方向	見付面積による軸組計算 桁行方向
床面積 71.21 × 0.15 = A （0.15 0.11 〕ア　0.21 0.15 〕カ）	a 1 4.7 × 0.5 = B	b 1 15.4 × 0.5 = C
要求される軸組の長さ　A　10.6815 m	要求される軸組の長さ　B　2.35 m	要求される軸組の長さ　C　7.7 m

有効軸組の長さ

区分	桁行方向軸組長さ ×	個所 ×	倍率 =	有効軸組長さ	区分	梁間方向軸組長さ ×	個所 ×	倍率 =	有効軸組長さ
5	1.82	4	3	21.84	5	0.91	6	3	16.38
				0	5	1.365	4	3	16.38
				0					0
				0					0
				0					0
				0					0
				0					0

判定：B 2.35 又は A 10.6815 < = 21.84 m 21.84　／　C 7.7 又は A 10.6815 < = 32.76 m 32.76

二階建の一階部分

床面積による軸組計算 梁間、桁行方向共	見付面積による軸組計算 梁間方向	見付面積による軸組計算 桁行方向
床面積 71.21 × 0.29 = D （0.33　0.29）	(a 1 4.7 + a 2 28) × 0.5 = E	(b 1 15.4 + b 2 25.3) × 0.5 = F
要求される軸組の長さ　D　20.6509 m	要求される軸組の長さ　E　16.35 m	要求される軸組の長さ　F　20.35 m

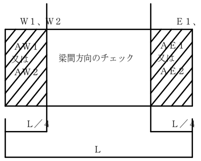
有効軸組の長さ

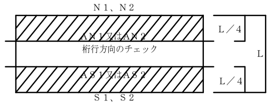
区分	桁行方向軸組長さ ×	個所 ×	倍率 =	有効軸組長さ	区分	梁間方向軸組長さ ×	個所 ×	倍率 =	有効軸組長さ
4	0.91	4	2	7.28	4	0.91	2	2	3.64
4	1.09	5	2	10.9	4	1.06	1	2	2.12
4	1.1	1	2	2.2	4	1.365	1	2	2.73
4	1.82	2	2	7.28	6	0.91	4	4	14.56
				0	6	1.365	1	4	5.46
				0					0
				0					0

判定：E 16.35 又は D 20.6509 < = 27.66 m 27.66　／　F 20.35 又は D 20.6509 < = 28.51 m 28.51

平成１２年５月２３日付け　建設省告示第１３５２号

（木造建築物の軸組の設置の基準を定める件）によるチェック）





１階梁間方向

W1部分の床面積＝　10.01/4*6.37+0.6825*0.91　=(AW1)　16.562㎡
必要壁量＝(AW1)　16.562　㎡×屋根及び壁による係数　0.29 =(HW1)　4.80298
存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にW1部分の軸組長を乗じた数値の和＝（SW1）

軸組長さ　1.09ｍ　×箇所数　2　箇所×壁倍率　2　倍＝SW1－①　4.36
軸組長さ　1.1ｍ　×箇所数　1　箇所×壁倍率　2　倍＝SW1－②　2.2
軸組長さ　1.82ｍ　×箇所数　1　箇所×壁倍率　2　倍＝SW1－③　3.64
軸組長さ　0.91ｍ　×箇所数　1　箇所×壁倍率　2　倍＝SW1－④　1.82
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SW1－⑤　0
合計（SW1）　12.02

壁量充足率(存在壁量：SW1) 12.02　÷必要壁量(HW1)　4.80298 =(JW1)　2.5026 ・・・①

E1部分の床面積＝　10.01/4*7.28　=(AW1)　18.22㎡
必要壁量＝(AE1)　18.22　㎡×屋根及び壁による係数　0.29 =(HW1)　5.2838

存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にE1部分の軸組長を乗じた数値の和＝（SE1）
軸組長さ　0.91ｍ　×箇所数　2　箇所×壁倍率　2　倍＝SE1－①　3.64
軸組長さ　1.09ｍ　×箇所数　2　箇所×壁倍率　2　倍＝SE1－②　4.36
軸組長さ　1.82ｍ　×箇所数　1　箇所×壁倍率　2　倍＝SE1－③　3.64
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SE1－④　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SE1－⑤　0
合計（SE1）　11.64

壁量充足率(存在壁量：SE1)　11.64　÷必要壁量(HE1)　5.2838 =(JE1)　2.2029 ・・・②

①及び②＞１．０・・・ＯＫ
①及び②＜１．０の場合

$$\frac{\text{壁量充足率の小なる方(JW1又はJE1)}}{\text{壁量充足率の小なる方(JW1又はJE1)}} = \quad ≧０．５・・・ＯＫ$$

１階桁行方向

N1部分の床面積＝　7.28/4*8.19+0.91*1.82　=(AN1)　16.562㎡
必要壁量＝(AN1)　16.562　㎡×屋根及び壁による係数　0.29 =(HN1)　4.80298
存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にN1部分の軸組長を乗じた数値の和＝（SN1）

軸組長さ　0.91ｍ　×箇所数　2　箇所×壁倍率　4　倍＝SN1－①　7.28
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN1－②　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN1－③　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN1－④　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN1－⑤　0
合計（SN1）　7.28

壁量充足率(存在壁量：SN1)　7.28　÷必要壁量(HN1)　4.80298 =(JN1)　1.5157 ・・・①

S1部分の床面積＝　7.28/4*10.01　=(AS1)　18.2182㎡
必要壁量＝(AS1)　18.2182　㎡×屋根及び壁による係数　0.29 =(HS1)　5.283278

存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にS1部分の軸組長を乗じた数値の和=(SS1)
軸組長さ　0.91ｍ　×箇所数　2　箇所×壁倍率　2　倍＝SS1－①　3.64
軸組長さ　0.91ｍ　×箇所数　1　箇所×壁倍率　4　倍＝SS1－②　3.64
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS1－③　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS1－④　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS1－⑤　0
合計（SS1）　7.28

壁量充足率(存在壁量：SS1)　7.28　÷必要壁量(HS1)　5.28328 =(JS1)　1.3779 ・・・②

①及び②＞１．０・・・ＯＫ
①及び②＜１．０の場合

$$\frac{\text{壁量充足率の小なる方(JN1又はJS1)}}{\text{壁量充足率の小なる方(JN1又はJS1)}} = \quad ≧０．５・・・ＯＫ$$

２階梁間方向

Ｗ２部分の床面積＝　=(AW２)　㎡
必要壁量＝(AW２)　0　㎡×屋根及び壁による係数　0 =(HW2)　0
存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にＷ２部分の軸組長を乗じた数値の和＝（SW２）

軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SW２－①　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SW２－②　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SW２－③　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SW２－④　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SW２－⑤　0
合計（SW２）　0

壁量充足率(存在壁量：SW2)　0　÷必要壁量(HW2)　0 =(JW2)　#DIV/0! ・・・①

Ｅ２部分の床面積＝　=(AW1)　0 ㎡
必要壁量＝（AＥ２）　0　㎡×屋根及び壁による係数　0 =(HE2)　0

存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にＷ２部分の軸組長を乗じた数値の和＝（SE2）
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SE2－①　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SE2－②　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SE2－③　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SE2－④　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SE2－⑤　0
合計(SE2)　0

壁量充足率(存在壁量：SE2)　0　÷必要壁量(HE2)　0 =(JE2)　#DIV/0! ・・・②

①及び②＞１．０・・・ＯＫ
①及び②＜１．０の場合

$$\frac{\text{壁量充足率の小なる方(JW2又はJE2)}}{\text{壁量充足率の小なる方(JW2又はJE2)}} = \quad ≧０．５・・・ＯＫ$$

２階桁行方向

Ｎ２部分の床面積＝　=(AN2)　0 ㎡
必要壁量＝（AＮ２）　0　㎡×屋根及び壁による係数　0 =(HN2)　0
存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にＮ２部分の軸組長を乗じた数値の和=(SN2)

軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN2－①　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN2－②　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN2－③　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN2－④　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SN2－⑤　0
合計(SN2)　0

壁量充足率(存在壁量：SN2)　0　÷必要壁量(HN2)　0 =(JN2)　#DIV/0! ・・・①

S1部分の床面積＝　=(AN1)　0 ㎡
必要壁量＝（AＳ２）　0　㎡×屋根及び壁による係数　0.29 =(HS2)　0

存在壁量＝壁及び軸組の種類による倍率にＳ２部分の軸組長を乗じた数値の和=(SS2)
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS2－①　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS2－②　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS2－③　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS2－④　0
軸組長さ　0 ｍ　×箇所数　0　箇所×壁倍率　0　倍＝SS2－⑤　0
合計(SS2)　0

壁量充足率(存在壁量：SS2)　0　÷必要壁量(HS2)　0 =(JS2)　#DIV/0! ・・・②

①及び②＞１．０・・・ＯＫ
①及び②＜１．０の場合

$$\frac{\text{壁量充足率の小なる方(JN2又はJS2)}}{\text{壁量充足率の小なる方(JN2又はJS2)}} = \quad ≧０．５・・・ＯＫ$$

〒２５９－１３０５　秦野市堀川１３－２
（株）岩田幸司設計事務所
１級建築士事務所
ＴＥＬ　０４６３－８８－３００７

縮尺	工事名称	平成１７年度秦野市くずは青少年野外センター再整備事業附属棟建築工事
設計年月日	図面名称	管理棟　筋違計算表
図面番号	KT－101	